

2006年度 第10回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2007年2月13日(火) 午後7時15分～9時15分
開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
出席委員：飯塚 睦、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、安岡厚子、柳澤正樹
山下恭子、渡辺美恵<以上8名、敬称略、あいうえお順>
欠席委員：阿部靖子<以上1名>
事務局：齊藤 睦(地域福祉課長)、中澤一郎(主事)、今林朝香(コーディネーター)
平田典子(コーディネーター)、丸木 敦(係長)

配布資料

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(1月)
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告
- 資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(2月)
- 資料 4：講演会『東京が大地震に襲われたら・・・』アンケート集計結果
- 資料 5：2006年度第9回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
- 資料 6：2007年度西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会スケジュール表(案)
- 資料 7：2007年度西東京ボランティア・市民活動センター事業計画(案)
- 資料 8：2007年度ボランティア・市民活動経理区分 経費積算資料(案)
- 資料 9：科目明細表(ボランティア・市民活動推進事業経理区分(案))
- 資料 10：西東京ボランティア・市民活動センターの今後の取り組み(案)
- 資料 11：災害時のシステムづくり専門委員会委員名簿(2006年度)

委員長：事務局から審議事項の追加が2点ある。一つは、2007年度に災害時のシステムづくり専門委員会を継続設置することと、二つ目にはそれに伴っての委員候補者についてということになっている。後ほど審議したい。ではまず、報告事項から始める。

1. 報告事項

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

事務局より、資料1に基づき1月期の業務報告が行われた。

委員長：事務局から業務報告があったが、質問等はあるか。

質問、意見なく、1月期の業務報告を終了する。

委員長：では続いてコーディネート状況の報告にうつりたい。

事務局より、資料2に基づき1月期のコーディネート状況の報告が行われた。

質問、意見なく、コーディネート状況の報告を終了する。

委員長：続いて、2月の事業予定にうつる。

事務局より、資料3に基づき2月期の業務予定について報告がある。

委員長：春！体験ボランティアについての説明をしてほしい。
事務局：夏休みに実施してきたが、春休み相当期間にも実施することにした。参加者は小学生以上でボランティア活動に関心のある人を対象とする。実施するにあたって一つ課題となっていたことが、ボランティア保険への加入で、参加者が3月、4月のそれぞれに体験をする場合は、2度加入することになる。各方面に問い合わせ、調べたが現状ではこの方法しかないと判断した。受入施設、団体の数は夏！体験ボランティアに比べると半数に減っている。
委員長：参加者の目標数を下げているのか。
事務局：大学生が春休みになっているので、大学を通じてのPRができず、大学生の参加は無いかもしれない。夏！体験ボランティアの参加者数よりは少なく見込んでいる。
委員長：大人の参加もよいのか。
事務局：小学生以上であれば誰でもよい。
委員長：ボランティアのつどいについても説明してほしい。
事務局：パネルディスカッションと、市内の活動団体と市民の方との直接交流の場を設けた。当日は25団体が参加協力してくれる予定である。
委員：夏！体験ボランティアではリピーターはいるのか。
事務局：春！体験ボランティアは今回が初めての実施なのでわからないが、夏！体験ボランティアでは、継続して参加する人は2桁に達しない状況ではないかと思う。
委員：せっかく参加したのだから、継続的に活動につながるとよいと思う。
事務局：最近の夏！体験ボランティアの参加者の特徴として、ボランティア体験というよりは職業体験的に参加してくる人が多い。将来の職業選択に役立てようとする参加者が多いようだ。リピーターということではないのだが、夏休み以降も継続して活動できるように受け入れ施設や団体にはお願いをしている。
委員長：体験ボランティアでは、奉仕活動の義務化の問題もあるのではないかと。
事務局：奉仕活動の義務化の詳細がわかってきたが、今の段階では先生が引率しないといけないような状況になっているので、体験ボランティアの事業での対応は難しい状況だ。
事務局：生徒が個別に行う活動については、認められないと聞いている。したがって生徒を受け入れる団体としては一度に多くの生徒を受け入れることになり、受け入れ自体が難しい状況にある。また、学校によっては、学校内で講演会を開催し、生徒をそれに参加させることで奉仕活動とすることを考えている学校もあるようだ。
委員長：そのような状況だと、奉仕活動の義務化において学校や生徒と活動先のコーディネートをしていないボランティアセンターも出てくるのか。
事務局：可能性としてはあると思う。
委員：リピーターのことを聞いたのはそういうことで、本人がどのように考え、感じるのかがとても大切だと思う。ただやればよいということではないのではないかと。
事務局：リピーターということではないが、夏！体験ボランティアに参加し、その後高齢者施設の職員になった人もいる。
委員：そういうことを記録として残し、募集チラシなどに体験した人の感想などとして掲載していく必要があるのではないかと。
委員：奉仕活動の義務化において、教師が引率し生徒がまとまって参加するのであれば、施設の清掃活動などで受け入れることはできる。
委員：受け入れ先がない場合は、最後の活動先として献血活動で受け入れることもできると思う。
委員長：奉仕活動の義務化の対応については、その動向を今後の運営委員会でも報告をしてほしい。

他に質問、意見なく、以上をもって2月期の業務予定の報告を終了する。

(2) 災害講演会報告

事務局より1月21日に開催した災害講演会『東京が大地震に襲われたら・・・』の実施報告および講演会当日、参加者にとったアンケートの集計結果について報告がある。

委員長：参加した委員の感想をお願いしたい。

委員：被災者になった立場でしか考えていなかったが、自分の命が助かったらすぐに他の人を助け

る気持ちをもちなさいという、講師の話に感銘を受けた。

委員：地域、人のつながりの大切さをとても感じ、自分が住む地域の自治会でも災害に関する取り組みの問題提起をしたいと思っている。

委員長：講演会での講師の話をホームページに掲載してはどうか。また、講師の許可をとってDVDにして貸し出してはどうか。

事務局：検討したい。

以上をもって災害講演会の報告を終了する。

(3).mixi のサイトについて

委員：mixi の中に西東京ボランティア・市民活動センターのコミュニティを立ち上げたので、活用してほしい。

委員長：所属する団体でmixi を活用して広報をした結果、かなりの効果があった。

委員：誰でも参加できるのか。

委員：すでに参加している人からの招待が必要なので、希望者は招待する。

委員：参加者が増えてくれればよいと思うので、委員の皆さんもぜひ参加してほしい。

2 . 審 議 事 項

(1). 2006年度第9回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料5により、第9回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員長：修正箇所はあるか。

修正、削除、追加等の意見なく、第9回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とした。

(2). 2007年度西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会のスケジュールについて

事務局より、資料6に基づき、2007年度の運営委員会のスケジュールについて提案がある。

委員長：質問、意見はあるか。センターニュースの発行時期はいつ頃を考えているのか。

事務局：まだ決めていない。運営委員会で意見を聞きながら決めていきたいと思っている。

委員長：事業評価は2006年度の事業の評価を行うのか。

事務局：1年遅れとなってしまう2007年度事業に反映されないのだが、2007年度の運営委員会で検討していただくのは、2006年度事業に対する評価としたい。

委員長：この評価を基に2008年度からの3ヶ年計画のようなものを作成してはどうか。

委員長：運営委員の学習会のようなものを行うということも考えてよいのではないか。いろいろな活動分野の方がいらっしゃるの、それぞれの活動の内容を説明してもらってはどうか。

委員：何を目的としてセンターニュースを発行するのか。

事務局：第1の目的としては西東京ボランティア・市民活動センターの存在を市民に知ってもらうことであり。2番目にたとえば2007年問題などのようにテーマを絞り、活動に参加する人を増やしていくことを目的としている。

委員長：以前検討した時のイメージとしては、社協だよりのようなものを考えていた。

委員：行政がイベントなどを行った時に、「PRしたのか」と聞くと、「市報に掲載をしたり掲示板にポスターを掲示した」という。はたして市民がそれを見ているのだろうか。何か従来の媒体ではない他の方法で、行政的ではない何かを考えられないだろうか。

委員長：センターニュースを1年間通じて使えるものにする。あるいはイベントを行うということも

考えられる。露出度を高めるのか、ボランティアを募集するのか、財源協力者を増やすのか、その目的をしぼることが必要だと思う。運営委員会でのスケジュールの中でセンターニュースの発行の検討を3月から行ってはどうか。

以上の意見を踏まえて運営委員会の2007年度のスケジュールとすることを確認した。

(3). 2007年度事業計画、予算について

資料7、8、9に基づき、2007年度事業計画、および予算について事務局より説明、提案がある。

委員長：軒下ふれあいバザーでは2007年度も企業として協力していただけるか。

委員：もちろん協力していく。

委員長：事業計画の軒下ふれあいバザーの項目で有料という表現があるのは出店料ということか。

事務局：そのとおり。

委員：ボランティア保険の普及という項目があり大切なことと思うが、ボランティア保険を扱うことでの仲介料はないのか。

事務局：手数料として2006年度実績額である57,000円を2007年度も見込んでいる。

委員：取り扱い件数が多ければ手数料も多くなるということか。

事務局：そのとおり。

委員長：企業の社会的責任ということでは、大きな会社では地域の支店などにその取り組みが降りてくると思う。これからどのように取り組むかは課題となってくる。

委員：知名度をあげるということが、毎年事業計画に掲げられているが、今年度はどのくらい認知度が上がっているのか。また来年度は何ポイント上げたいとして目標に掲げているのか。

事務局：数値的な裏づけをとっていないので、認知度が上がっているかどうかの判断は難しいが、市民まつりや武蔵野大学の摩耶祭、青年会議所のわんぱく相撲に参加するなどして相当のPRをしている。また他団体の講座を共催して、その講座の中でボランティア・市民活動センターのPRをさせてもらっている。しかし、日常業務の中で認知度が上がったという実感はない。

委員長：講座を田無総合福祉センター以外の場所で開催するというのも必要ではないか。外に打って出るということが大切だと思う。災害をいつまで重点事業とするのか。災害ボランティア講座を開催してはどうか。また誰をターゲットとするのかも考える必要がある。

事務局：来年度に西東京市が地域防災計画の見直しをすることになっているようなので、そこに災害ボランティアセンターとして西東京ボランティア・市民活動センターの位置づけが明確になり、詳細が決まった段階で一つの区切りとしたいと考えている。

委員長：重点事項に入れるかどうかはわからないが、団塊の世代、青少年層など、どこにターゲットを置くのかを考えていくこともあってよいのではないか。

委員：そのことに関連して、田無総合福祉センターで赤ちゃん体操を毎月行ったらお金を出してでもセンターへ行くという声があった。子育てに関するものであればお金を出すことを惜しまないということだった。子育て中の方たちを対象とした講座をボランティア・市民活動センターが行ってもよいと思う。

委員長：中長期間を見た中でターゲットを絞り込むことをしていてもよいのではないかと思う。

委員長：2007年度事業に伴う予算はどうなっているか。

事務局：今日資料配布した予算書から西東京市補助金が、約100,000円ほど減額となっているのでご了承いただきたい。

委員長：他に事務局として特筆すべき事項はあるか。

事務局：災害時のシステムづくり専門委員会で検討した結果、エイドステーションチェックツアーを新規事業として企画することになった。予算総額では変更はないが、災害講演会の予算を組み替えることで予算計上している。

以上をもって、2007年度事業計画、予算についての審議を終了し、事務局案が承認される。

(4).西東京ボランティア・市民活動センター強化プラン遂行上の課題について

資料10に基づき、事務局より今後の取り組み事業についての提案がされる。

委員長：資料としてまとめた事業を次年度に行うということではなく、方向性を示したものと理解してよいか。

事務局：職員の学習会を行った中で、これからボランティア・市民活動センターが行っていく必要があるものとしてまとめたものである。

委員長：今後、これをどのように扱っていくか。

事務局：資料中のすべての事業と現在の事業のすべてを実施することは不可能なので、どの事業を行ったら効果的に、効率的に目的を達成できるのかを検討していただきたい。

委員長：今日は時間がないので具体的な議論はできないが、5月から7月にかけて講座の体系化を議論することになっているが、事業全体の体系を検討する必要があると思う。

3月以降、配布資料を基に継続検討することを確認した。

(5).2007年度災害時のシステムづくり専門委員会の設置および委員候補者について

資料11をもって、事務局より災害時のシステムづくり専門委員会の継続設置および委員候補者の提案がされる。

委員長：災害時のシステムづくり専門委員会を継続する理由について説明してほしい。

事務局：2005年度に運営委員長宛に提出された『西東京ボランティア・市民活動センター「災害時の対応」に関する答申』の取り組みが半ばの状態であることと、2007年度中に西東京市地域防災計画の見直しが行われるにあたり、継続的に災害時のシステムづくり専門委員会の意見を聞きながら市と災害ボランティアセンターについての詳細を詰めていきたいと考えている。そのためにも災害時のシステムづくり専門委員会を2007年度も継続設置していただきたい。

委員長：現委員は全員継続して就任していただけるのか。

事務局：災害時のシステムづくり専門委員会を継続設置することについての了解は得ているが、各委員が4月以降も継続して就任していただけるかどうかの確認は、これからの作業になる。

委員長：地域防災計画の見直しに災害時のシステムづくり専門委員会委員が加わるということもあってよいのではないか。

他に意見なく、2007年度も災害時システムづくり専門委員会を継続設置すること、および委員候補者について承認される。

以上をもって、第10回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。